



工事中の永代供養塔

# わきみず

お盆号

発行所  
普門山  
林泉寺

2018-08-02

## 『永代供養塔』 建立

本来なら、先祖代々のお墓はその代の家族が守って継承して行くものであるとされてきました。出来ることなら、ずっと守っていきたいと思うし、見てもらいたい、誰でもその気持ちはあると思います。しかし、核家族化・少子化・子供が先祖代々の土地を出て新しい土地での生活、というライフスタイルなど昔と今とは生活も考えも変わってきています。その時代の変化に対応し、亡くなったときの不安・悩み・心配を解決できるのが「永代供養塔」です。

最近、葬儀や法事の席で次のような話を耳にすることが増えてきました。  
 「子供が結婚していないため、子供の代でお墓を継承する人がいなくなる」  
 「子供がなく、夫婦二人なので、今までのお墓を維持できな」  
 「埋骨ができなくて、遺骨を抱えて困っている、早く土に還したい」  
 「両親が亡くなり、自分は独身、後をみれなくなり自分の事も不安だ」  
 「子供が娘だけで、その娘が嫁いでしまい、嫁ぎ先に押しつけれない」

皆さんも同じような事に思い当たる方はいませんか？

そこで、当寺でも右記の様なことを抱えている方々がいるのでは無いかと思ひ、早急の課題として「永代供養塔」が必要と思ひ、駐車場側の新墓地の正面に建立中です。お盆号(2)は完成予定です。

「考えていた」、「考えなければいけないと思う」、「将来が不安だ」等のお悩みのある方は、是非、お寺まで相談、お問い合わせしていただければと思います。



# おもてなしの こころ

## ○お茶の準備

オリンピック誘致の際、滝川クリステルさんのスピーチですっかり流行語になった「おもてなし」。

例えば、「疲れているだろうな」と思いを巡らせ、暖かい飲み物など用意したりすると、相手が喜んでくれます。相手が喜んでくれると自分もうれしくなって元気になりますよネ。相手を大切に思う気持ちがあっても上手く伝わらないと残念です。

まずは、お客様が訪ねて来たことに「ありがとう」と感謝の気持ちを込めてお茶の準備をしてみましょう。

### 今回のおもてなしポイント

- ★ 急なお客様でもあわてないように日頃からお茶の道具を清潔にしておきましょう。
- ★ お客様が喜ぶ顔を想像しながら準備してみましょう。

お茶を入れる前に  
美味しくお茶を飲むために、準備を始めましょう。

\*清潔かな？

★手をあらったかな？

★爪は長く伸びていないかな？

★湯呑、茶托、お盆は濡れていないかな？

\*湯呑茶碗のチェック！

★ひびはないかな？

★欠けていないかな？

★茶色い茶渋で汚れていないか？

お茶の淹れ方

1分待つね♡

急須



① 茶碗にお湯を注ぎます。正確にお湯の量も量れ、茶碗を温めることもできます。

② 急須にお茶の葉を入れます。(一人4グラム・小さじ2杯位)

③ 続いて冷ましておいた茶碗のお湯を入れ、1分ほど蒸らします。

④ お茶の濃さが同じになるように、少しずつ順番に最後の一滴まで注ぎます。

⑤ 茶碗と茶托は別々にお盆に載せます。

？

どうして茶碗と茶托は別々に運ぶの？



最初からセットして運ぶと歩いている間にお茶がこぼれて茶托が濡れるかもしれないですね。ピシヨピシヨになった茶托で出すなんて格好が悪いし、お客様が御茶を飲むときに茶托が茶碗にくっついてしまう場合もあるので別々に載せるのです。

さあ、みなさん。上手にお茶の準備ができましたか？



わざとではなくても、出されたお茶碗にひびが入っていたり、汚れていたら大切なお客様として迎えられない感じがしますよネ？  
お茶碗の飲み口が欠けていると、口を切つてけがをさせることもあるので、必ず確認しましょう。





**忘れず 活かし 伝える**

ご家族を亡くすと大変辛いものがあります。亡くなるまでの看病、家と病院を何回往復したことか。やるだけやった・・・大変だったけど良い孝行が出来たと思うに違いありません。

その後の、茶毘、通夜、葬儀、埋骨とそして四十九日の法要と、あつという間に時間が過ぎていったようにおもわれるでしょう。

たくさんの方々が焼香に訪れて、お悔やみの言葉をいただき、やつとここからホッとしたりではないでしょうか。「家族は確かに亡くなってしまったけど、これでようやく一区切りだ」と。

今年、初盆(新盆)を迎える方も多いのではないのでしょうか。そのお気持ちも、さまざまであるとお察しいたします。

哀しみ、追慕、安堵・・・中でも、こんな考えをお持ちの方はきっと多いでしょう。「亡くなった人には、何をすれば良いのだろうか?何が一番供養になるのだろうか。」

好きだった食べ物をお供えすること。お墓をきれいに掃除すること。月命日にお経を唱えること。どれも大切な供養です。中でも一番大切なのは、亡くなった方から教わったことをこの先も活かしていくことだと思ふのです。私たちは、亡き人からたくさん

事を学びました。字の書き方、勉強、仕事、人との付き合い方、一人の人間としての生き方など色々でした。故人からの教えは心に深く刻みこまれていくはず。しかし、私が亡くなった後にはどうなるのでしょうか。今後は、若い世代、次の世代に教える伝えていかなければなりません。

皆さんも亡くなった方から教わったことはたくさんあるでしょう。今あなたが生きていくのは、そういった方々から色々なことを教わってきたからにはかなり重宝です。その知恵を次世代へと伝えて行きたいと思ふます。親と子だけでなく、祖父祖母と孫、あるいは友人同士。さまざまなご縁の中で、受け継がれていくものが必ずあります。

例えば、歩き方、後格好、しぐさなど故人に似てきたと言われることがあるかと思ふます。その時、嬉しいような恥ずかしいような気持ちになつた事があつたかと思ふます。思ふに、これは故人の教えが自分に受け継がれている証拠だと思ふます。

お盆を機会に、誰か亡くなった方と自分が似ていないか、皆さんも思い出してみてはいかがでしょうか。それはきっと、あなたが誰かから何かを受け継ぎ、活かしているという証拠。それをより良い形で次の世代に伝えて行きたいと思ふます。「忘れず 活かし 伝える」。必ずや亡くなった方への何よりのご供養となることでしょう。



**お施食会のご案内**

八月十四日(火曜日)  
午前十一時より

本堂に於いてご供養します。  
供養料 一千元以上  
同封の申し込み用紙に  
お名前を記入し  
供養料を添えて  
当日本堂受付まで  
お持ちください。

※尚、当日お出でになれない方は  
前もって、随時受付いたしますので、  
どうぞお申し込みください。

**今年の初盆のお**

平成二十九年  
六月二十六日より  
平成三十年  
六月二十五日まで  
逝去された方です。

〈お盆(八月十二日)までに  
四十九日を終えられた霊位です〉

**「修行」ってなんだろう?**

それはふだんの生活のなかでしている  
何気ないことを大切にしている。

「修行」というと、特別なことがたくさんあるようにみなさんは思っていないでしょうか。ところが、坐禅やお経を読むことだけが修行ではなく、ふだん生活の中でしている何気ないこと(顔を洗ったりとか、歯をみがいたりとか、食事をしたりとか)とても大切に考えるのです。つまり、ふだん皆さんがしていること一つ一つを「より良い自分になるために」と考えるのです。



**その一  
大きな声で挨拶をしよう**

それは相手こそ「おはようございます」を  
お互いに認め合おう。



「修行」をする仲間には、大きな声で挨拶をしましょう。「おはようございます!」「こんにちは!」大きな声で挨拶をすれば、した方もされた方も気持ちがいいでしょう?挨拶をすれば、相手も笑って挨拶してくれる、何事も初めがかんじんです。

**その二  
生活の一つ一つを大切に**

それは一つ一つのふるまいを、  
おろそかにしないこと。

「修行」には、難しいこともない。トイレのスリッパをそろえること。開けたとびらを閉めること。一つ一つの行いをていねいにすることで、ふだんの生活全てが「物事をていねいに、注意深く行う」自分を育てる「修行」になるのです。もちろん次に使う人のためにもなります。



**その三  
みんなと積極的に話をしよう**

それはお互いの話をよく聞き  
理解しあおう。

「修行」では、仲間とたくさん話をするのも大切です。人は誰一人として、同じ人生を歩まないし、全く同じ考え方はしない。「ただひとり」の存在です。自分一人では気付かなかった大切なことに気付くためにも、積極的に話をしてみましょう。チャンスが、そこにあるはず。

沈黙の時間も大切な「修行」です。私たちはふだん、たくさんの人たちとの関わりの中で生きている。人との関わりはとても大切なことだけれども、ときどき、まわりに流されて自分を見失ってしまうこともあります。だから黙ってひとり自分と向き合う時間が大切です。「自分」を見つめることで、きっと「より良い自分」のイメージもつかめてくるでしょう。



**その四  
沈黙の時間をたいせつにしよう**

それは時には黙ってすわって、  
自分自身を振り返る。

**その五  
食事を大切に**

食べ物には「いのち」「思い」と「あまじい」がこめられている。  
その「いのち」と「思い」にかなう人間になる。

「修行」の生活では、食事をとても大切に考えます。それは、食べることが自分の命を支えること、そして世界中とつながることだからです。食べ物にはいのちがつまっている。食べ物には思いがつまっている。食べ物には世界がつまっている。



「いのち」と「思い」にかなう人間になろう。